

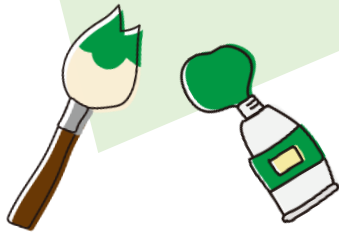
# 令和4年度 近視予防作品 コンクール

## 入賞作品集

— 表彰式 —

令和4年10月27日(木)

福井県生活学習館ユーアイふくい



主催 福井県学校保健会

後援 福井県 福井県教育委員会 福井新聞社 FBC 福井テレビ(株)  
(公財)福井県予防医学協会 北陸電力(株) 関西電力(株)

## 令和4年度近視予防作品コンクール事業

- 趣 旨 近視予防の啓発運動の一環として、本事業により児童生徒の近視予防への意識の高揚を図る。
- 主 催 福井県学校保健会
- 後 援 福井県 福井県教育委員会 福井新聞社 FBC 福井テレビ(株)  
(公財)福井県予防医学協会 北陸電力(株) 関西電力(株)

### 【 募集内容 】

- 1 テーマ 「近視予防」について
- 2 対 象 小・中学校および特別支援学校の児童生徒
- 3 作 品 図 画(小学校1～3年)画用紙四ツ切(文字なし)  
ポスター(小学校4年～中学生)画用紙四ツ切(文字あり)  
標 語(小学校5年～中学生)A4判たて  
作 文(小学校4年～中学生)原稿用紙400字詰め 2枚程度
- 4 審査会 令和4年9月21日(水)、26日(月)
- 5 表 彰 【部門】 図画・ポスターの部、標語・作文の部

### 【 審査員 】

#### 《図画・ポスターの部》

- 清 水 正 男 様 元 福井市藤島中学校 校長  
廣 瀬 剛 様 北陸電力株式会社福井支店 営業部営業担当 課長  
岡 本 淳 様 北陸電力株式会社福井支店 営業部営業担当 主査プランナー

#### 《標語・作文の部》

- 山 下 利 恵 子 様 元 福井市明新小学校 校長  
龍 野 篤 朗 様 元 福井市灯明寺中学校 校長

## 入賞者一覧

賞 名	学校名・学年・氏名	
	図画・ポスターの部	標語・作文の部
福井県知事賞	敦賀市立栗野中学校 3年 細川 悠和	坂井市立高椋小学校 5年 酒本 美咲
福井県教育委員会賞	南越前町立今庄小学校 4年 高谷 龍門	越前市万葉中学校 1年 岸本 紗弥
福井県保健会賞	鯖江市吉川小学校 5年 水嶋 咲七	勝山市立荒土小学校 5年 長尾 理愛
福井新聞社賞	大野市陽明中学校 2年 天野 由唯	永平寺町松岡小学校 6年 木下 耀
FBC賞	坂井市立春江小学校 6年 森藤 希菜	福井市明新小学校 5年 鳥居 篤暉
福井テレビ賞	越前市王子保小学校 3年 西部 愛華	坂井市立加戸小学校 4年 上田 壮真
公益財団法人 福井県予防医学協会賞	坂井市立春江西小学校 1年 新谷 優晟	越前市南中山小学校 6年 小柳 京楓
北陸電力株式会社賞	鯖江市中央中学校 1年 小泉 愛	坂井市立東十郷小学校 5年 前田 衣音
関西電力株式会社賞	おおい町立佐分利小学校2年 柿本 更	おおい町立佐分利小学校 5年 藤原 亜湖



福井県知事賞

敦賀市立粟野中学校 3年 細川 悠和

【講評】

「あなたの目は大丈夫ですか?」と問いかけるこのポスターの画面の絵柄はシャープで素晴らしいです。中央に配置した目の描写が実に巧妙で、瞳に映っている人物は白抜きにして、「オッ何?スゴイ」と人の目をくぎ付けにします。配色も着色も表現力が大変見事なポスターとなっています。



福井県教育委員会賞

南越前町立今庄小学校 4年 高谷 龍門

【講評】

柔和で深みのある緑を中心とした木々や山々の彩りが大変美しいです。サラリと描いた中央の目の瞳の中には画面全体の美しい風景が映し出されています。目には自然の緑が一番だという、美しく、心にしみるアピールの強い近視予防ポスターとなりました。



福井県学校保健会賞

鯖江市吉川小学校 5年 水嶋 咲七

【講評】

どっしり座って、スマホでゲームをしているようです。かなりの時間、熱中しているのが身体の様子から伝わってきます。目は、まばたきもせずもう限界。「目を休め、遠くを見よう」という標語によって目を守ることの大事さを訴える力強いポスターとなっています。



福井新聞社賞

大野市陽明中学校 2年 天野 由唯

【講評】

「目を大切に」という近視予防を訴える簡潔な言葉を明朝体でレタリングしました。この見事な文字が画面の中で大事な役割を果たしています。そして緻密に描き込まれたりりしい眉毛と、きらっと輝く力強い瞳、「目を大切に」の文字が画面の中でドンピシャな場所に配置された明快なポスターになっています。

坂井市立春江小学校  
6年 森藤 希菜

【講評】

このポスターは大変斬新です。思い切った形でちょっと不思議な絵になっています。まず、緑の木を画面に合わせ、四角に描いています。次に、目は正面から見た形ですが、紺色の部分が目にくっついていて頭を上から見たように描いたり、目は木の緑を見ているように描いたりして、魅力一杯のポスターに仕上げられています。

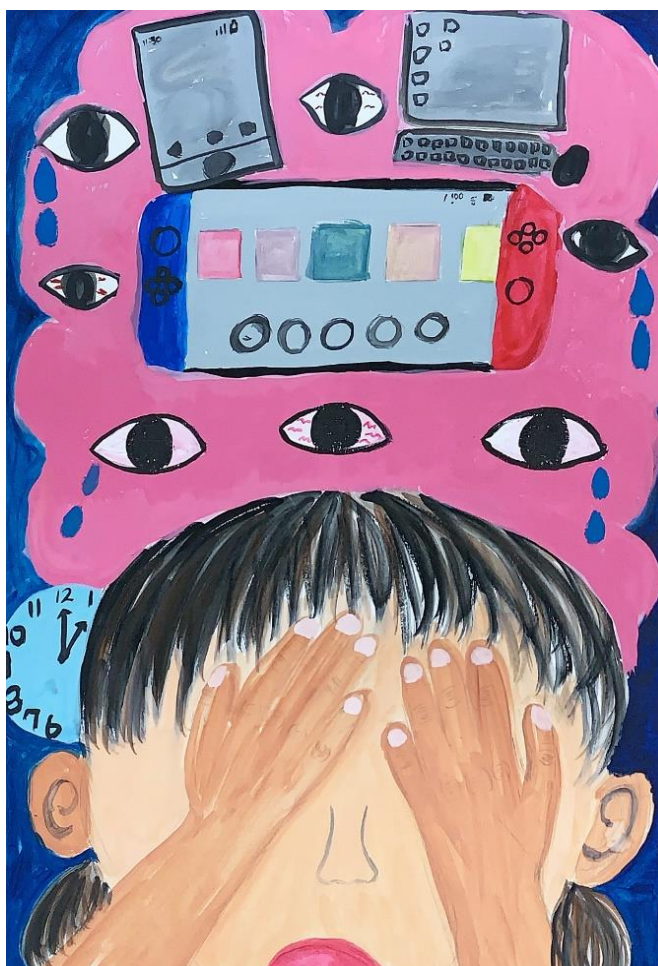


FBC賞

越前市王子保小学校  
3年 西部 愛華

【講評】

スマホやゲーム、テレビなど目に悪いものばかりで涙目になったり目が赤くなったり。大変だと目を大切にしながら、反省をしている気持ちを画面一杯に描いています。大事な目のことを一生懸命思いやって描いた、大変好感の持てる温かくて魅力的な絵画になっています。



福井テレビ賞



公益財団法人  
福井県予防医学協会賞

坂井市立春江西小学校 1年 新谷 優晟

【講評】

明るい青空にきれいに描かれた七色の虹とポツカリ浮かんだ雲さんが気持ちよさそうです。その中を木のある風景が映った目がふわりふわりと浮かんでいます。すがすがしい雲も木の緑も明るく、素直な見方、感じ方で誠実に描いています。色の塗り方も丁寧で心が込もっています。心が晴れ渡るすてきな絵になっています。

鯖江市中央中学校

1年 小泉 愛

【講評】

「きれいな・目が泣いて・見えなくなる前に」とてもおしゃれな詩のような言葉がきれいな文字で書き込まれています。そして大変工夫された魅力的な目が描かれています。小泉さんのデリケートで繊細な感性・感覚・表現力が作品に現れています。色々なことにそのよさを発揮してってください。



北陸電力株式会社賞



おい町立佐分利小学校 2年 柿本 更

【講評】

画面全体に赤、黄、青、オレンジ、ピンクなどたくさんの色を使って、柔らかく、気持ちよく色塗りをすすめています。更さんはおおらかで温かな心の持ち主なのでしょうね。色の使い方も描き方も大変きれいで魅力一杯の作品となっています。

## 福井県知事賞

### 「私とお父さんの眼は乱視」

坂井市立高椋小学校 五年 酒本 美咲

私は生まれつきお父さんのい伝もあり、両目ともに強度乱視です。

乱視があると分かったのは私が4歳の時でした。私は、おさないころから高い所がとても苦手で、アスレチックやタイヤわたり、階段をおりる事もこわかったです。今思えば、ばやけてよく見えていなかったからだだと思います。ようち園の年少組、最後のこん談会の時、お母さんが先生に、

「運動が苦手なのか、特に高い所はこわがって、とてもしん重になるんです。」と、相談すると、ようち園での様子も話してください、

「春休みお時間があるようでしたら、一度、目の検査をしてもらってもいいかもしれませんね。目できよりを測ってとんだりするので、もしかしたら、見えにくいのかも知れないですね。」

と、アドバイスして下さいました。そして、春休みに、がん科に行きました。目薬をさしていろんな機械を使って、検査をしてもらいました。検査の結果は、両目ともに強度乱視とのことで、メガネを作って、治りようしていくことになりました。先生に、

「早く見つけられてよかったですね。」と、言われました。メガネを初めてかけた時、自分で今までふつうだと思っていた見え方より、はるかに良く見えたので、とてもびっくりしたのを覚えています。そして、こわかったタイヤわたりもできるようになり、階段をおりる事も前よりこわくなくなり、色々なことができるようになり、とてもうれしかったです。私は今も定期的に検しんを受けて、メガネもつけ続けています。

これ以上、目が悪くならないようにと、お父さん、お母さんからよく、テレビを見た

り本を読んだりしているときに、

「目はなしなさい。」

「しせいに気をつけて。」

と、言われて、目を近づけないように気をつけています。他にも暗いところで本を読まないようにしたりなど、当たり前な事をふつうにできるように気をつけています。

私は、しせいを良くする・明るいところでテレビを見る・目を休める時間をとるなどちよつとした行動が大切だと思っています。そのちよつとした行動をあきらめず、ずっと続けていくことで目が守られると思います。

お父さんは、今も時々、私に、

「パパのい伝で、みさきちゃんの目が悪くなってごめんね。」

と、言います。でも、私は、今回、この作文を書いて目の大切さ、目が見えるということがどれだけのすごいことで、幸せなことか分かることができました。私はこれからもお父さん、お母さんからもらった目を大切にしていきたいです。

#### 【講評】

講評 山下 利恵子 先生

生まれつき「強度の乱視」であるという自分の経験をもとに文章が展開されていて、読み手の興味を引きつけています。目が悪いと、生活していてどんなことが不便かをよく知っている美咲さんだからこそ、人一倍、目の大切さを実感しています。その心情が会話文とともに素直に綴られていて共感が持てました。また、家族の美咲さんと思う気持ちにも、ほろりとさせられました。5年生とは思えない巧みな表現力に感心しました。温かい家族に見守られ、これからも両親からもらった目を大切にしていってほしいです。

福井県教育委員会賞

「当たり前ではない大切な物」

越前市万葉中学校 一年 岸本 紗弥

「あの小さい星が見える人？」

星空がきれいな夜、私の家族はみんなでこんな会話をします。私の家族は目が良くて誰も眼鏡をかけていません。おじいちゃんおばあちゃんも目が良いので、私は、なんとなく自分は目が悪くなることはないだろうと思っていました。

でも、あるときからお兄ちゃんが、「あー、もう小さい星が見えなくなってきた。前はもっと星がたくさん見えてきれいだったのに。」

と、言うようになりました。理由を聞いてみると、塾でパソコンをずっと見ていて目が悪くなってしまったそうです。

そこで、私は近視について調べてみました。近視は、長時間近くを見続けていると、近くを見やすいように眼球の形が変わり、それが続くと変形した眼球が戻らなくなり近視が進行する。そして、一時的な近視はトレーニングで回復する可能性もあるが、眼球が完全に変形した場合は回復しない、というこわいことが書かれていました。そうなるってしまう前に、日常生活の中で気をつけるだけで近視を予防する方法が多くの眼科系の学会で紹介されていました。

- ・目を30cm以上はなす
- ・長時間近くを見る作業を続けない
- ・目を休める
- ・外で遊ぶ

どれも私が小さい頃からお母さんや学校の先生から言われていることばかりでした。

学校でも、毎週月曜日に指を使いながら、近くを見たり遠くを見たりする目の体操をしています。この予防方法は、きっとみんな一度は聞いたことがあるし、知っているはずですが、それでも、近視の低年齢化が進み、東京都内の小学生の約76%、中学生の約95%が近視との結果が発表されました。それには、新型コロナウイルスの影響もあると思います。休校やステイホームが続いて、家にいる時間が増えました。そうすると、ついユーチューブに夢中になって気がつくのと近い距離で長時間スマホをさわっていることがあります。マンガを寝転びながら読むこともありました。なにより友達ちと外で遊ぶことが少なくなりました。その分、ラインで連絡をとりあい、スマホをさわる機会が増えました。こういうことが重なったのも、近視の低年齢化が進む原因の一つだと思います。

近視は、遺伝的要因と環境要因の両方が関係すると言われています。近年の近視が増えたのは、生活環境の変化の影響が大きいと思います。遺伝では、両親が近視の子どもは、両親が近視でない子どもに比べて7〜8倍近視になりやすいそうです。私は、遺伝的にはとても恵まれていると気づかされました。「目が良い事が当たり前ではない」ということに感謝をして、これからは、目が悪くならないように気をつけていきたいです。そして、いつまでも小さい星が沢山ある星空が見たいです。

【講評】

講評 山下 利恵子 先生

「あの小さい星が見える人？」まず作文の題名に興味関心が引きつけられました。このエピソードから入る展開に獨創性があり、また文章構成もしっかりしているの、とても読みやすく中学生らしい作文内容でした。近視の予防方法や統計資料に裏打ちされた近視の現状、新型コロナと近視の因果関係など、現代の課題にも鋭く切り込み、様々な視野に立って近視予防を考察しているところが素晴らしいです。最後「いつまでも小さい星が見える目でいたい」と導入と呼応させて結んでいるところも秀逸です。

福井県学校保健会賞

「目指せ！視力回復！」

勝山市立荒土小学校 五年 長尾理愛

「左です？」  
 「えっと下かな。」  
 「見えません……。」  
 「いつからだろう。目が悪くなったのは。」  
 「CとDね。また別の日に再検査するよ。」  
 「はい……。」  
 たぶん、小学二年生の終わりごろから悪くなったんだと思う。そのころはゲーム機があつて毎日していた時だと思う。それだけじゃない。ねつころがつて本を読んでいたのもえいきようがあつたはずだ。  
 「はあ。お母さんに言つて眼科に行かないと。」  
 これ以上、目を悪くしたくないけど、簡単に視力回復なんてできない。  
 「もうメガネかけたら？」  
 「つて毎回言われるけど、」  
 「いやー！」  
 こっちも毎回こわっている。  
 「だつてスポーツする時とかじゃまだし、女子でメガネかけてる子、いないもん！」  
 わたしは陸上を習っている。走っている時、メガネがゆれたりして視界がぶれたり、落ちそうで気になつて走りに集中できないかもしれないからメガネはいやだ。  
 「まあ先生と要相談しないとダメやな。」  
 病院につくと、目に異常がないか確にんして視力検査をする。そしてその結果を、伝えて先生とお話。この順番にはもうなれてる。  
 「タブレットやゲームなどは長時間していませんか？」

「はい。その代わりに悪いしせいで本を読んでいます。」  
 「長時間ですか？」  
 「はい。だいたい長時間です。」  
 「じゃあこれからは十五分に一度、二十分に一度を目安に目をやすませてあげてください。」  
 「分かりました。ありがとうございました。」  
 これで先生とのお話は終りよう。あいさつをして病院を出た。  
 「よし。早速、先生に言われた通りにしよう。」  
 「読書以外の勉強とかでもそれやらないとダメだよ。」  
 「分かった。」  
 がんばるぞ。毎日続けるぞ。そう思ったけれどうまくいかなかった。理由は二つ。一つはタイミングが悪いから。キリの悪いところで二十分がたつ。二つ目はタイマーをセットし忘れるから。一回終わるとすぐにまた本を読みだしてしまう。  
 でも、これからはちゃんと続けようと思う。それは目がいいと良い事があるからだ。遠くにあるものがよく見えれば自分も得するしだれかの役に立つかもしれない。いつも見えていなかったものがはつきり見えるつて新せんだと思う。だからこれからは目を休ませたり視力回復をまじめにしたい。今度こそは続ける！  
 「視力アップのために、がんばるぞ！」  
 さあ視力回復生活のスタートだ。

【講評】

講評 山下 利恵子 先生

お医者さんとのやり取りやお母さんとのやり取りなど、文章が会話で展開されているので臨場感にあふれています。そのため、理愛さんとともにそこにいるかのような錯覚に陥り、理愛さんの気持ちに手が取るようにこちらにひしひしと伝わってきて、共感させられました。人間の心は弱いもの、でも視力アップのためには心を鬼にしてがんばるぞ、そんな理愛さんの固い決意が、最後の「さあ、視力回復生活のスタートだ。」という歯切れの良い簡潔な一文に込められていますね。

FBC賞

「大切なものを見続ける」

福井市明新小学校 五年 鳥居 篤暉

ぼくは、ゲームが好きです。本を読むことも好きです。ゲームをしたらやめられなくなり、本を読むと止まらなくなりません。おかげで、目が悪くなってしまうことがありません。お母さんやお父さんにゲームの時間を決められたり、読める数も決められています。不満は少しあります。もっとゲームだっただけいいし、もっと本を読みたいと思います。でも、決められたりすることできると両親は本当にぼくの目を心配してくれているのだらうなと思います。だから、少しでも目を良くして、両親の期待に答えるためにがんばっていきたくいです。

近視は遠くが見えなくなりますが、だからすぐめがねを買おうとすると不便です。実際、ぼくのお父さんはめがねです。でも、不便だからなってほしくないし、ぼくに言っていました。めがねは、近くも遠くもはっきり見えて便利です。でも、寒いところで温かいものを食べたらくもるし、ボールなどで遊んでいたら、こわれるかもしれないし、お金の何よりかかります。調節などで時間もかかります。だから、めがねは便利などころもあるけど、不便なところもたくさんあるのです。

では、ぼくがやっている視力を少しでも良くする工夫をしようかします。まずは、親に決めてもらうゲームや本の時間です。ていつに時間を決めてもらって気をつけられれば、今以上の視力の悪化はなくなると思います。あと、ゲームをするときに、ブルーライトカットメガネというものをめがね屋さんで買おうと、目に入るブルーライトをへらせるので、さらに視力の悪化を防げます。次は、遠くの景色を見ます。車の移動中やお家のまどから、学校のまどからでもいいです。遠くの景色を見ると、目を休ませることが出来ます。

特に、緑色を見ると目が良くなります。だから、山でのキャンプや、登山は目を良くする絶好のチャンスなんです。さらに、ゲームの後や、読書の後に目を休めると、視力の悪化を防げます。最後は、視力が回復できる本を使うことです。ぼくが使っているのは、「ガボール・アイ」という本です。同じ編模様を見続けるだけだから簡単です。みなさんも続けることができる視力回復本を探してみてください。

目が悪くなるということは、きれいな景色も気づかないうちに少しずつ見えにくくなっているのかもしれない。めがねを買ってもいいですが、少なくともぼくは、道具にたよらず少しでも目を良くしていきたいです。みなさんも、道具にたよらず、自分で目を良くしてみてください。

【講評】

講評 山下 利恵子 先生

四段落構成でしっかりと文章を組み立て、素直な文体で作文が書かれています。素晴らしいですね。ゲームも読書も好きな篤暉さん、でも僕の目を心配しているお父さんお母さんの決めたルールには従わざるを得ません。確かにめがねはとても不便です。そこで、道具に頼らない目を良くする方法が具体的に紹介されていて、とても説得力がありました。特に「ガボール・アイ」という視力回復本は初めて知りました。どんな本なのかとても興味があります。是非使ってみてほしい気持ちになりました。

## 福井テレビ賞

### 「パイロットに向けて」

坂井市立加戸小学校 四年 上田 壮真

「テレビからはなれなさい。」とお父さんは近くで見ているといつも言います。ぼくは、だんだんテレビに近付いていきます。すると、「パイロットになれないよ。」と言われる。ぼくのしよう来のゆめは、こう空自衛隊のせんとう機のパイロットになることです。パイロットは目が悪いとダメです。でも、ついテレビにお中になってしまおうのです。近付くのを、せぐために画面を小さくして見ることにしました。でもつい近付いてしまうのです。

また、ろく画したえい画やアニメ、DVDになると、長時間ずっと見てしまいます。すると今度は、お父さんが、「三十分見たら十分遠い山を見て、目を休めるといいよ。」と、言ってくれました。さっそくやってみました。またテレビにお中になり、わすれてしまいます。「自分で気を付けて見ないと。」と思い、意しきしてやっつくとだんだんできるようになってきました。

「パソコンやスマホもだよ。」とお母さんが言いました。パソコンやスマホは近くで見ると見えます。テレビにくらべて、画面も小さいのに好きなユーチューブが入るのでやめられません。「もうやめなさい」と、お母さんにしかられます。

ぼくは、一日のメディア時間を二時間と決めました。そうすることで、ずっと見ることがなくなると思っています。

また、明るい部屋で、はなれて見ようと思います。アニメが始まる時は、必ずアニメの主人公が「明るい部屋で、はなれて見よう。」と、注意しているからです。アニメの主人公もぼくたちが、目が悪くなることを分かっているのだと思います。

そして、外に出る時間をいやすうと思えました。ずっと家の中でテレビやパソコン、

スマホを見ていると目が悪くなるし、外で体を動かせば、体も強くなるし、しぜん遠くを見るからです。

ぼくのお父さんもお母さんも目が悪く、メガネとコンタクトレンズを使っています。子どものころ、ゲームばかりやっていたと言っていて、目が悪くなったことをこうかいしていました。

ぼくは、近視よぼうをちゃんと守って、目が悪くならないようにします。そして、しよう来のゆめにおけて、がんばろうと決意しました。

#### 【講評】

講評 山下 利恵子 先生

子どもらしい素直な文章で自分の気持ちが綴られていて、好感が持てました。壮真さんの夢は航空自衛隊の戦闘機のパイロット、すごいですね。この夢の実現のためには今現在の「良い目」が必要不可欠です。そのために、「メディア時間」「明るい部屋」「外遊びの時間」と三つのルールを決めてそれを守ろうとしているところに、強い意志、強い決意が表れています。目のためならどんなことも実行できるでしょう。夢を叶えるために、いつまでも良い視力をキープして行ってほしいです。

公益財団法人 福井県予防医学協会賞

「私の視力維持作戦」

越前市南中山小学校 六年 小柳 京楓

私は、視力が右も左もAだ。しかし、私のまわりの友人たちは、最近、視力が下がったと話していた。よく一緒に遊ぶ友人たちなので、私もいつ、今のAの状態から、B、もしくはCになってしまうのではないかと心配になった。よく遊ぶ友人とはしゅ味が合う。だから友人といっしょだとゲーム、動画視ちよう、まん画などうちにくると、この三つのことをみんなでローテーションしながら遊んでいる。そんな友人がそろって、視力が下がったというのだから、もはや他人事ではない。

そこで、私は、私なりの視力維持計画を考えてみた。

一つ目は、「ブルーライトカットメガネ着用作戦」である。スマホの画面から、発せられるブルーライトの大部分をカットしてくれるメガネだ。これを着用すれば安心と思いつていた。しかし、現実はそんなに甘くなかった。私が見た新聞記事には、このブルーライトカットメガネは、眼精疲労がほとんど軽減されない研究結果が出たと書いてあった。本当にがっかりである。このメガネさえつけていけば安心して書いたが白紙にもなった。そこで、結局、私の視力A維持計画の方法は、「スマホ時間限定使用作戦」となった。母と約束して、決まった時間にスマホを使用することを家族のルールとしている。

次に、考えた作戦は、「視界に緑を作戦」である。これは父からのアドバイスを参考にした。父は大学時代、埼玉県の街中で一人暮らしをしていて、そこでの不規則な生活などがたたって、視力を悪くしたらしい。けれど、福井にUターン就職して、最初にふ任したところが、大野市の緑に囲まれた村だったそう。そこで過ごした三年間で、何と視力が、もとのAにもどったといっていた。「視界に緑を作戦」必ず、一日のう

ち、私の家の庭から見える三里山をながめる時間をつくることにした。両親とも最近、ガーデニングに取り組んでおり、夕方は、庭で作業していることが多い。その様子を見ながら、正面にそびえたつ三里山とそこにしむ夕日とともに、緑をながめている。いやし効果もありそうである。

「温故知新」次々と新しいことが生まれてくる現在だからこそ、昔から言われていることの中に大切なことがあると思つた。私は、この視力A維持計画を考え、行動する中で、新しいものを追いつながらも、古きよきものを大切に直すことがこれから、何事にも必要だと感じた。

【講評】

講評 山下 利恵子 先生

まず「視力維持作戦」という題名から、「どんなことが書いてあるのだろう」と大変興味がありました。視力を維持するために次々と作戦を展開し実行していく過程が、読んでいてとても楽しかったです。また、その近視予防の作戦に自分なりの名前をつけている点もおもしろいですね。読み手はその作戦を一度やってみたくなります。良いアイデアだと感じしました。お父さんから聞いたエピソードも効果的に挿入されています。そして、最後は「温故知新」という故事成語で文章全体をしっかりとまとめているのも、さすが六年生です。

福井新聞社賞

つかれ目に 緑のごちそう ひと休み

永平寺町松岡小学校 六年 木下 耀

【講評】

「疲れ目にごちそう」なんて、なんと温かで素敵な表現でしょうか。しかも「ひと休み」というゆったりとした表現。審査員の心まで安らかになりました。目には緑を見ると良いと言いますが、少しも即物的ではなく、心の底からそうだなあと気づかされます。

講評 龍野 篤朗 先生

北陸電力株式会社賞

未来の目 今から守る ゲーム時間

坂井市立東十郷小学校 五年 前田 衣音

【講評】

前田さんの中にある危機感が伝わります。将来も目は重要な器官であるが、このままいくと大変だぞという警告の気持ちでしょうか。未来のために今することの大切さが伝わります。「守る」は「目を守る」と「ゲーム時間を守る」という掛詞になっています。

関西電力株式会社賞

みどり見て メディアの後の 目の休けい

おおい町立佐分利小学校 五年 藤原 亜湖

【講評】

メディアという流行りの語句と「みどり」という日常語の取り合わせが良いです。そして、「休けい」という具体的な行動の提案。それがリズムよく読む者の目に飛び込んできます。

藤原さんの、目を守りたいという気持ちが伝わります。

## 【標語作文の部 全体講評】

講評 龍野 篤朗 先生

すっかり電子機器が老若男女に定着した時代になりました。特にスマホなど通信手段の普及は、同時に画像や文字・絵文字など、視覚に頼る機器の普及でもあります。今年も、「近視予防に関する作品コンクール」が開催され、多数の作品が応募されたことは、近視予防のためにうれしいことです。また、作品には、近視予防という観点だけでなく、「健康な目」「目の大切さ」を伝える作品も多く、目の健康に対する意識の向上がうかがえました。応募作品も、標語七七五作品、作文三二〇作品が寄せられました。各地区での選考と中央での選考の結果、前述の通りの作品が選ばれました。全体にレベルが上がっていると思えました。これは先生方の児童・生徒さんへのご指導の賜物と思います。しっかりした文章、適した語彙の使用など、国語的に見ても、福井県の国語科教育の高さが証明されているような気がします。内容も、単なる知識の羅列ではなく、実生活の事柄を取り上げている作品が多くて、その点はとても説得力がありました。その中で特に感心した点、注意した点などは次のことです。

まず、近視予防の標語作文ですので、読みやすさが欲しい。丁寧なはっきりした字で書かれているか、です。また、その作文が枚数制限いっぱい使われているか気になりました。自分の想いを伝えるのに気持ちが大切ですが、たっぷり書き込んでほしいと思います。

また、「近視予防」の目的がはっきりしているために、似たり寄ったりの文章になりがちです。その中で筆者の個性、息遣いがあると良いです。たとえば、自分らしい予防策が書かれているとか祖父母の話をつっかきかけに考えた、など家族の協力の上に小中学生らしい感性の感じられるものが心に響きます。会話が入るとより雰囲気伝わってききました。

今回選考するうえで私も審査員が非常に悩んだことがあります。その作品はレベル的にとても高く、今までにない広い視野の作品でした。ただ、近視という現象をどうとらえるかに誤解を生む恐れがありました。また、筆者ではない個人の名前が書かれていました。個人情報保護から諦めましたが、印象に残った良い作品でした。



福井県学校保健会

